

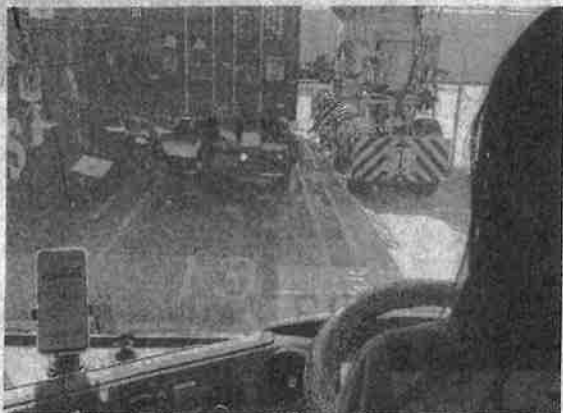
阪神港 ■ コンパス試験運用

阪神国際港湾(外園賢治 社長、神戸市中央区)は23日、近畿地方整備局などと

ICT(情報通信技術)を 実験は搬出のみで、前日活用した海上コンテナの搬 までに海運貨物取扱業者が出入予約システム「CON PAS(コンパス)」の試 験運用を神戸港のPCR18 上組コンテナターミナルで 実施した。PSカードを受 け付けてから10秒以内にド ライバーの携帯端末に積み

円滑誘導で工程削減

積み場所表示「10秒以内」



PSカードの番号がコンパスに送られ、ドライバーの端末に行先レインを表示(近畿地整局提供)

分以上かかっていた行き先の表示が、即時で可能となった。更に、一度も車両から降りずに搬出でき、運転者の負担を軽減。番号入力などの操作も必要無いため、打ち間違いによるトラブルが起らないといった利点が見られた。

阪神国際港湾の担当者は「トラックが何時に来てどのコンテナを積むか分かっているの、ターミナル側も作業を組み立てやすい。ゲート前車両の滞留削減に向けて期待できる結果となったのではないかと述べた。

報を受信してから、ターミナルゲート前へ移動し、PSカードを保安要員に照合してもらった。その後、PSカードの番号がコンパスに送られ、ドライバーの端末に行先レインが表示されるまで、10秒以内で完了した。

3台のトレーラが2個ずつ、計6個のコンテナで実験し、いずれも1

(根来冬太)